

稲・麦・大豆かわら版

第1号 2019.6.14.発行
 栃木県塩谷南那須農業振興事務所
 0287-43-2318

水稻の今のすがた（5月上旬田植え）

生育は、平年に比べ2～3日進んでいます。

茎数は平年より多く、必要茎数はおおむね確保されています。

速やかに、間断かん水を開始しましょう。

現在の生育は、平年に比べ、草丈は高く、茎数は多く、葉色は淡く、葉齢から判断して、生育は2～3日進んでいると思われます。

5月下旬から6月上旬の気象が高温・多照傾向であったため、生育が回復し、進んだと思われます。（水稻生育診断予測事業 6/8 調査結果より）

	草丈(cm)	茎数(本/m ²)	葉齢(葉)	葉色
本年値	41.4	489.0	8.7	4.0
平年値	35.8	396.2	8.2	4.7
対比	115.6	123.4	0.5	-0.8

塩谷南那須農振管内データ

○今後の対策

①水管理・・・必要な茎数（坪60株植えて1株20本程度）が確保されたほ場については、速やかに間断かん水を開始してください。

②病虫害防除・・・「令和元年度植物防疫ニュース（速報No.1）」では、イネ縞葉枯病のウィルス保毒虫率は6.5%（平年値6.9%）で、特に県中南部で防除が必要な10%を超える地点が複数確認され、県北部でも保毒虫率が徐々に上昇している状況です。本病の発生拡大を防ぐためには、地域ぐるみで本病媒介虫であるヒメトビウンカの防除（箱施用剤+本田防除）を実施しましょう。

ヒメトビウンカ第一世代幼虫のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率(%)

地点名	H29	H30	R元
大田原市親園	4.2	2.1	8.3
大田原市蛭畑	0.0	3.1	1.0
さくら市松山新田	3.1	6.3	5.2
高根沢町花岡	2.1	2.1	2.1
県北部平均	2.3	3.4	4.2
県中部平均	6.5	10.2	10.2
県南部平均	7.7	6.3	5.5
県平均	6.3	6.7	6.5

注：検定サンプルは、令和元(2019)年5月10～27日に
 麦類ほ場から採集したヒメトビウンカ第一世代幼虫
 検定方法：DAS-ELISA法 検定数：96頭/1地点

大豆の適期播種を心がけましょう！

◆播種適期：6月15日～7月5日

・適期に比べて播種時期が遅すぎると、①生育量不足で大幅に減収する。②時には早霜で成熟に至らない年もあるので、特に麦跡の場合は播種が遅れないように。

・地力低下や播種遅延によって生育量不足が予想される場合は、栽植密度を標準より1～2割程度多くするとともに、追肥等の対策を講じる必要がある。

・播種前には必ず、クルーザーMAXX、キヒゲンR-2フロアブル等で種子消毒を行う。

大豆の発芽や初期生育を改善しましょう。

出芽時の湿害は致命的！！

湿害を受けると・・・

- 出芽や初期生育が不良になり減収する
- 根粒菌の活性が低下し減収する



湿害を受けたほ場

「対策1」

■ 地表水の早期排除のため、圃場周囲に排水溝(明渠)を設置する。



- 明渠や排水口を点検しましょう。
- 必要であれば、生育期間中、明渠の補修や溝さらい等を実施しましょう。

「対策2」

■ 湿害による生育不良を回避するために、畝立て同時播種栽培を導入する。



畝立て同時播種

- あわせて心土破碎と額縁明渠を実施してください。
- 前作(麦)で実施すれば大丈夫です。